



「匙なめて 童たのしも 夏氷」

山口誓子

(暑い夏の日、子どもたちが、かき氷を食べています。丁寧にスプーンをなめながら、冷たさと甘さを味わっているのです)

この句を詠むと、子ども時代の暑い夏の日が思い出されます。

数日すると夏休みが始まります。子どもたちもワクワク、心待ちにしていることでしょう。「山に行こう」「海に行こう」「おじいちゃん、おばあちゃんの家に行こう」・・・等、いろいろ楽しいことをしようと楽しみに待っていることでしょう。

お父さん、お母さんからすれば、夏休みになると、子どもたちがずっと家にいるということで「大変だ」と思っておられる方も多いのではないのでしょうか。でも、この夏休みは、子どもにとって成長するためのとても大切な時間です。学校に行っているとできなかったこと、「本を読むこと」「自由研究」「体験活動」・・・等、まとまった時間がないとできなかったことが夏休みにはできます。

夏休みは、子どもに自由な時間が与えられ、その時間を計画的に使う訓練ができます。自分で自分を律する訓練にもなります。どのような時間の使い方をするのか見守ってやってください。



ねえ、ねえ、こっちを向いて

駅の構内で、列車を持っている若いお母さんと小さな男の子の姿がありました。

子どもは、列車が来るのを今か今かと嬉しそうに待っていました。そして、列車が来ると飛び上がりそうにして喜んでいました。しかし、その間、お母さんはずっとスマホの画面に指を動かしていたのです。その二人の姿を見て、私は残念な気持ちになりました。できれば、一緒に列車の来る方を向いて「もうすぐ来るよ。どんな色の列車が来るのかな、かっこいいといいね。楽しみだね」などという声をかけながら待ってやれば、子どももよりワクワク感が強まり、一緒に喜ぶことができたのではないのでしょうか。

スマホより子どもの方が大切なことは、誰もが分かっているのですが、最近は、「どうなのだろうか？」という親の姿を見ることが多くなりました。子どもを見る時間より、スマホの画面を見る時間が長くなっているお父さん、お母さんがおられるのではないのでしょうか。お父さん、お母さん、スマホの画面を見ることを減らして、その分、子どもの方を向いてやるようにしましょう。

子どもはみんな、お父さん、お母さんのことが大好きです。そして、どの子も、ねえ、ねえ、お父さん、お母さん、「こっちを向いてよ」「話を聞いてよ」「一緒にいようよ」と子どもは、願っています。

子どもには、お父さん、お母さんに、幼稚園であったこと、保育園であったこと、学校であったこと等、話したいことや聞いて欲しいことがたくさんあります。子どもが話しかけてくるときは、子どもの方をきちんと向いて、目を見て聞いてやるようにしましょう。決して、スマホを見たりして聞かないでください。話を聞いて、子どもと一緒に喜んだり、びっくりしたり、うなずいたりしてやってください。そのことにより、子どもは、自分は愛されている、大切にされているのだと感じるのです。

親も子どもを見つめ、話に耳を傾けることにより、子どもの心が理解できるようになります。そのことにより、より深く子どもとつながることができるのです。

今日も子どもたちが「ねえ、ねえ、こっち向いて」と言っていますよ。

文責＝青少年育成センター指導員 藤村